

失敗から学ぶこと

御油小・4 平木 莊馬

「しっばいにかんぱい」この題名にひかれた。なぜなら、失敗はめいわくをかけたり、いやな気持ちになったりする悪いことなのに、この本の題名には、かんぱいといういい気持ちになる言葉が書いてあったからだ。それを見てぼくは、反対の意味の言葉がなぜならんでいるのだろうとふしぎに思って、この本を読むことにした。

運動会のリレーで一着でゴールインできたが、テイクオーバーゾーンからはみ出し失格になってしまった主人公加奈を、昔応援団に入っていたおじいちゃんがはげますという物語だ。

ぼくは、自分だけでなく他の人にもめいわくをかけた加奈にとっても共感した。なぜなら、ぼくも同じくらい大きな失敗をしたことがあるからだ。

アイスホッケー全国大会のことだ。同点でえん長戦の時に、相手のキーパーと一対一で戦えるPSという場面で、大失敗をした。ぼくは、PSが得意だと思っていた。なぜなら前の試合でもPSで決めたし、今まで得点した中にPSで決めたものがたくさんあったからだ。しかしこの時ぼくは点を、うばえなかった。ぼくはとてもくやしかった。点を決められなかった自分がいやになった。でも落ち込まなかった。そこがぼくと加奈の大きくちがうところだと思う。加奈は自分のせいでチームが負けたとせきにんを感じて部屋にとじこもってしまった。しかしぼくはPSでシュートを打つための作戦

を立てた。次の試合でPSのチャンスがやってきた。作戦通りにシュートを打つと点を決めることができた。自分が立てた作戦がうまくいき、さらにチームとしても勝つこともできたので、これまでの試合の中で一番うれしかった。

失敗を生かして、できるようになったことがぼくにあったように、加奈にもあったと思う。加奈は落ちこまずに失敗を生かせばよかったと思う。たとえば、中学校での部活や運動会でのリレーで気を付けることができる。加奈が失敗してしまった時に、

「しっばいにかんぱい」

と、はげましてくれたおじいちゃんのように、友達が落ちこんだ時にはげますこともできると思う。

この本と出合う前は失敗がいやなものだと思っていたけれど、本を読んだり自分の経験を通したりして、失敗が意味のあるものを感じてきた。失敗せずにぼくが今までできるようになったことは一つもない。失敗があるからこそできるようになるのだと思う。だから失敗は悪いことばかりではない。ぼくはこれから失敗をおそれずにいろいろなことにちよう戦してみたいと思う。その中には失敗がたくさんあるのだろうと思うけれど、仲間や家族と

「しっばいにかんぱい」

と言って、みんなで乗りこえていきたい。